

---

## 第2回 日野町議会定例会会議録 (第2日)

令和2年3月12日 (木曜日)

---

### 議事日程

令和2年3月12日 午前10時開議

- 日程第1 議案第2号 令和元年度日野町一般会計補正予算 (第7号) (町長)
- 日程第2 議案第3号 令和元年度日野町介護保険特別会計補正予算 (第4号) (町長)
- 日程第3 議案第4号 令和元年度日野町簡易水道特別会計補正予算 (第4号) (町長)
- 日程第4 議案第5号 令和元年度日野町公共下水道事業特別会計補正予算 (第3号) (町長)
- 日程第5 議案第6号 令和元年度日野町農業集落排水事業特別会計補正予算 (第2号) (町長)
- 

### 本日の会議に付した事件

- 日程第1 議案第2号 令和元年度日野町一般会計補正予算 (第7号) (町長)
- 日程第2 議案第3号 令和元年度日野町介護保険特別会計補正予算 (第4号) (町長)
- 日程第3 議案第4号 令和元年度日野町簡易水道特別会計補正予算 (第4号) (町長)
- 日程第4 議案第5号 令和元年度日野町公共下水道事業特別会計補正予算 (第3号) (町長)
- 日程第5 議案第6号 令和元年度日野町農業集落排水事業特別会計補正予算 (第2号) (町長)
- 

### 出席議員 (10名)

- |         |          |
|---------|----------|
| 1番 中山法貴 | 2番 梅林敏彦  |
| 3番 山形克彦 | 4番 金川守仁  |
| 5番 松尾信孝 | 6番 中原信男  |
| 7番 安達幸博 | 8番 佐々木 求 |
| 9番 竹永明文 | 10番 小谷博徳 |
- 

### 欠席議員 (なし)

### 欠 員 (なし)

---

## 事務局出席職員職氏名

局長 ————— 池 田 俊 弘

---

## 説明のため出席した者の職氏名

町長 ————— 塚 田 淳 一      副町長 ————— 音 田 守  
教育長 ————— 生 田 進      総務課長 ————— 渡 部 裕 之  
住民課長兼会計管理者 ——— 矢田貝 慎 一      企画政策課長 ————— 荒 木 憲 男  
健康福祉課長 ————— 伊 田 喜 浩      産業振興課長 ————— 角 井 学  
建設水道課長 ————— 飛 田 朋 伸      教育課長 ————— 砂 流 誠 吾  
危機管理監 ————— 天 野 智

---

## 午前10時00分開議

○議長（小谷 博徳君） おはようございます。

ただいまの出席議員数は10人であり、定足数に達していますので、これより令和2年第2回日野町議会定例会第2日目を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしました日程のとおりであります。

---

## 日程第1 議案第2号

○議長（小谷 博徳君） 日程第1、議案第2号、令和元年度日野町一般会計補正予算（第7号）を議題といたします。

説明は初日に終わっていますので、これより質疑を行います。

最初に、歳入全体の11ページから16ページの質疑を行います。質疑ありませんか。

5番、松尾信孝議員。

○議員（5番 松尾 信孝君） 歳入の寄附金、ふるさと納税に関してお伺いいたします。

補正で150万の増額があったということで、総額500万、非常に喜ばしい限りではありますが、最初にお伺いしたいのは、この150万を増額するに当たって、一体何がどういう現象でこれが増加になったのか、それに対して、増額することについて町長は何か特別な御指示があったのかということと、ついでなので、本町の場合、ふるさと納税に対する返礼品はどういうものを御用意していらっしゃるのか、もう一度お伺いします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） おはようございます。ふるさと納税の関係でございますけれど、今回、増額補正ということでお願いしております。昨年もいろいろふえました。その流れが続いてるんじゃないかなと思っております。特に私のほうから指示したということはございません。

それと、納税に当たっての返礼品については、担当課長のほうから説明させます。

○議長（小谷 博徳君） 荒木企画政策課長。

○企画政策課長（荒木 憲男君） それでは、ふるさと納税についてお答えいたします。

まず、1点、今回ふやさせていただいた点ですが、大山ブランド会の関係で、先ほど町長申しましたが、昨年からということで、その関係の西部地域で一体となって取り組んだ状況でふえていくというふうに分析しております。

それから、返礼品についてですが、日野町産のお米、お餅、ソバ、それからJK課のカレー、それから新たな特産品であるハブ茶、エゴマ油、それから金持神社の開運グッズ、珍しいところでは日野川のラフティング体験チケットなど、返礼品とさせていただいているところです。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 5番、松尾信孝議員。

○議員（5番 松尾 信孝君） 関連してお伺いしますが、この150万の増額に対する、当然のことながら、お店でいえば、これの仕入れに係る費用っていうのがあると思うんですが、歳出のほうで、そちらで聞いてもいいんですけど、関連なのでここでお伺いしますが、歳出のほうで補正予算が組まれておりませんが、これは何か、どういうことで処理されたのか、お教えてください。

○議長（小谷 博徳君） 歳出の……（「関連がある」と呼ぶ者あり）

○議員（5番 松尾 信孝君） 歳出、載ってないから。

○議長（小谷 博徳君） 載ってない。はい、わかりました。

○議員（5番 松尾 信孝君） 載ってないので、ここで関連して、そのまま。

○議長（小谷 博徳君） 荒木企画政策課長。

○企画政策課長（荒木 憲男君） 歳出のほうですが、歳入と同額をふるさと基金に積み立てるようしております。そっちのほうで同額上げております。

○議長（小谷 博徳君） 返礼品について予算が上がってないという質問。わからんかいな。（発言する者あり）

荒木企画政策課長。

○企画政策課長（荒木 憲男君） 返礼品については、もともと予算組ませていただいた中の歳出予算で賄えておりますので、そちらのほうは今回歳出ということは上げさせていただいておりません。

○議長（小谷 博徳君） 5番、松尾信孝議員。

○議員（5番 松尾 信孝君） 当初予算では、返礼品は報償費ですよ、これ82万5,000円。そうすると、大体350万の30%でなっとるわけですよ。これ、政府のガイドラインも。これが、ですから、500万になったときに、当初見てた82万5,000円の中で賄えたという御説明ということは、初めからじゃあ、どちらかですよ。当初予算で82万5,000円というのがもともと膨らませて見られてたのか、それから、もしくは本町の返礼品というのは政府のガイドラインよりももっともって低い、すなわち20何%とかそのあたりでしかなかったということなんですか。それともほかの御説明ありますか。

○議長（小谷 博徳君） 荒木企画政策課長。

○企画政策課長（荒木 憲男君） 返礼品の分については、今おっしゃる、組み合わせとか選ばれるものによっても金額が多少変わってきます。その関係で、もとの当初予算で賄えたということでございます。

○議長（小谷 博徳君） ほかにありませんか。

次に、歳出全体の、17ページから27ページの質疑を行います。

2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 17ページ、一番下、4番、企画費の中なんですけれども、集落支援員についてお伺いします。

募集では予定募集数が5名だったということですが、現実には3名。そのうち1人やめられて、現在2人ということなんですけれども、なかなか支援員に手を挙げてくださる方が少ないということだと思えるんですけれども、どんなふうな募集方法をとられたんでしょうか、お伺いします。

○議長（小谷 博徳君） 渡部総務課長。

○総務課長（渡部 裕之君） 梅林議員の御質問にお答えいたします。

募集方法でございますけれども、これはまずは公募ということにさせていただきます。広報紙を使ったりというような方法での公募をかけさせていただきまして、なかなかそれだけでも手を挙げていただくことができませんでしたので、あとは心当たりのあるようなところ、集落支援に見合う経験のあるような方、こういった方々にお声かけを直接させていただきながら募ったところでございます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） これは、いわゆる兼業での募集だったんでしょうか、それとも専業として募集されたんでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 渡部総務課長。

○総務課長（渡部 裕之君） 募集といたしましては、兼業での募集をいたしております。予算上も兼業での集落支援員を計上いたしております。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 集落とか支援をする場所によって恐らく幅が広がったり、小さかったりするだろうと思うんですけども、一括して兼業ということではなくて、もっと広域的な形で専業という形で採用される場合もあってよろしいかと思うんですが、その辺は検討されておられますでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 渡部総務課長。

○総務課長（渡部 裕之君） 集落支援員のそもそものあり方として、兼業、専業、いずれも可能なわけでございますけれども、以前にもこういった御質問あったかと思うんですけども、現状で、今、この集落支援のあり方について2本立てで考えてございます。一つは、小さな単位から支援のあり方を問うていく、今やっている集落支援員を求めてやっていく方法。

それから、もう一方では、この集落支援、個別にではなくて、もう少し町全体を眺めたところで調査を始め、今後のあり方を構築していくという、そういう両方からの今アプローチをしているところでございまして、今後、集落という単位をどのように支援をするに当たって膨らませていくのか、あるいは小さいままでいいのか、こういったところもあわせて今検討しているところでございます。

○議長（小谷 博徳君） ほかにありませんか。

7番、安達議員。

○議員（7番 安達 幸博君） 24ページのプレミアム商品券についてお尋ねをいたします。

粗収入も含めてであります、1,575万円の実績減額であります、こんなに多額の補正がかかるという要因と、実績、どういう方法でこれを実施されて、こういう結果になっているかの検証のものを聞きたいんですが。まず、町長、これ、国からの消費税アップ対策であります、このことに対して、こんなに少なかったときの日野町の影響っていうのはどのように考えておられますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埜田 淳一君） プレミアム商品券の、どういうんですか、利用が少なかったということ  
でございます。直接的には、これは消費増税の関係のお話もございますので、要は消費が、地域  
経済に与える消費の減少、そういったことがある、そういう影響はあるかなというふうに思っ  
ております。細かい点につきましては、担当課長のほうから、それ以外は。

○議長（小谷 博徳君） 角井産業振興課長。

○産業振興課長（角井 学君） 私のほうから補足の答弁をさせていただきます。要因と実績、  
検証という御質問でございます。

まず、プレミアムつき商品券事業でございますが、この事業は子育て世帯と低所得者世帯を対  
象に商品券を発行するという事業でございます。当初、対象者、本町の場合1,030人いら  
っしゃいました。しかしながら、実際の申請は約400人ということでございまして、未購入分  
の商品券、約600人分につきまして、このたび減額させていただくものでございます。議員も  
おっしゃられるとおり、この事業、本町の経済活性化に資するものだということで本町のほうも  
できるだけ利用いただきたい、購入いただきたいということで、例えば購入窓口を役場1カ所  
ではなくて、黒坂支所のほうに設けて2カ所、利便性を高めるという取り組みでありますとか、あ  
と、対象者の1,030人の方に対しましては、2回、御本人さんのほうに文書のほうで御案内  
をさせていただきました。また、当初、申請の期間を1月末としておりましたが、やはり申請の  
状況が芳しくないということで1カ月延長させていただきました。2月末という形でさせてい  
たきましたし、この10月から3月までの期間、チャンネルひのでありますとか、広報紙を活用  
して制度の案内をしてまいりました。しかしながら、やはり40%の申請率というのは残念ながら  
こういう結果になっておまして、できるだけ利用していただきたいかかったんですが、なかなか  
全員の方には御利用いただけなかったことについては、本町も今後の取り組みに当たって反省す  
べきところは反省して、何がいけなかったというのはこれからも検証してまいりたいというふう  
に考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達議員。

○議員（7番 安達 幸博君） このプレミアム商品券は、先ほどは子育て世帯とおっしゃいま  
したが、だけですか。高齢者はありませんでしたかいな。高齢者世帯もあつたように思うだけ  
ど。もう一度確認をしておきます。

○議長（小谷 博徳君） 角井産業振興課長。

○産業振興課長（角井 学君） 先ほど申し上げました、子育て世帯と住民税非課税の世帯が対  
象となります。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達議員。

○議員（7番 安達 幸博君） ということは、消費を本当に喚起せないといけない世帯に手厚く国からのこういう支援があったわけですが、せっかくの国からの支援なので、戻すっていうのはいかなもんかなと思うんです。実績を見ながら、もう少しきめ細かな対応がなければならないのじゃないかなと思うんです。一つの例が、私どもが高齢者世帯にたまたま行ったときに、こういう申請書とか、申請書さえわからない。こういうものが来るとるが、これでもらえるんかいなとか、これでも使えるんかいなとか、そういう類いの質問があったので、すぐさまここを書いて返信で送ってくださいっていうことをお伝えして、そしたらまた、その人がうまく商品券を購入してくださいというまた文書が来たっていうような、そういう、これ、2段階ぐらいのセクションがあるんですよ。ここがやっぱりわかりにくかった点だろうと思うんです。

こういうのは、福祉課にもお伝えしたいんだけど、せっかく高齢者等に見守りに行ってるときに、こういう文書が来てるはずだけど出されましたかとかいうような、そういった丁寧な説明が欲しいと思うんですが、産業課長、健康福祉課長、どちらでもいいですが、御答弁いただけますか。

○議長（小谷 博徳君） 伊田健康福祉課長。

○健康福祉課長（伊田 喜浩君） 安達議員の御質問にお答えいたします。

見守り支援員、本町2名おりますが、プレミアム商品券の申請時には高齢者宅を訪問してプレミアム商品券の申請について話をしております。見守り支援員から聞きますと、4,000円の商品券を買うと5,000円の買い物ができる、2万円分の商品券を買うと2万5,000円分の買い物ができるというものですが、なかなかそのお金を出すのが難しいと、そういう声が多かったということを見守り支援員から聞いております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） そういうきめ細かいものが実施されてあるなら本当に結構なことだと思うんですが、それじゃあ、先ほど言われた、もともとの原資がないんだと、2割つけてももらえるんだけど、もとの原資がないんだということになれば、これはこれでまた別な施策も必要だと思うので、町長、ここはそういう意見があったというのを、国にちゃんとこういう事例のことを言ってほしいです。でないと、40%しか申請がなかったっていうのは大変残念なことですよ。その点はまた国なり、県を通じてでもいいですが、しっかりやってほしいと思いますが、町長、先ほどの実施されたとかを踏まえて、改めて町長の意見を聞きたいです。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埜田 淳一君） プレミアム商品券についての重ねてのお尋ねでございます。

結果から言いますと、議員さん御指摘のように、やはり手続的にちょっと説明はしてるけども、なかなかわかりにくい部分というのがあったのではないかなというふうに思いますし、今、健康福祉課長が申しましたように、そもそも原資がというようなお話もあるということでございます。求めやすい、さらには使いやすい、そして入手しやすい、そういったことをやはり工夫していかないといけない、そういう、今回事例になったと思いますので、それは検証して、新たなこういう取り組みがあるときには反映させていただくように国にも要望してまいりたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） ほかにありませんか。

3番、山形議員。

○議員（3番 山形 克彦君） 18ページの財政調整基金についてお尋ねをしたいと思います。

まず、このたびの補正予算ですけども、一応、実績見込みということで約1億3,400万円の減額補正がなされておりますが、そのうちで、恐らくこれが一般財源かなと思うのが、公共施設等の長寿命化基金に2,367万9,000円積み立てをされておりますが、ここに持ってこられたという理由は何かありますか。といいますのも、常識的に考えれば財調か、あるいは予備費に持ってきておいて、決算をした時点で基金に、それぞれの目的を持って基金を積み立てるとというのが一般的な考え方だと思うんですけども、要は一般財源の残りを、見方によれば、一般財源が残ったのでここに持ってきたような内容に受け取れますけども、ここに持ってこられたという理由があれば、その理由をお願いいたします。

○議長（小谷 博徳君） 渡部総務課長。

○総務課長（渡部 裕之君） 財政調整基金に積まずに長寿命化基金に積んだということのお尋ねでございます。

財政調整基金、一応、本町の目標といいますか、これぐらいまで積んでおこうという目安といたしまして、大体15億円を目安として考えております。現状、この財政調整基金の目標たる15億、若干超えたところに今ございますので、まず財政調整基金への積み立てといいますか、一時的にでも置いておくのはこれぐらいにしておきたいなというところが一つございます。

一方で、長寿命化基金につきましては、今後のいろいろなインフラも含め、公共施設の維持運営に相当な金額がかかってこようかと思っております。ということで、こちらの長寿命化の基金のほうにも積み増しをしていって、ある程度の基金は持つておきたいという気持ちもございます。これは毎年幾らを積み立てようという目標はございませんけれども、余力のできたところでこれを積み増ししていきたいということで考えておりますので、こちらのほうに積んだということでござ



います。

○議長（小谷 博徳君） 3番、山形議員。

○議員（3番 山形 克彦君） 基本的な考え方で、ことし庁舎の空調設備をやられて約4億だったですかね、ちょっとわかりませんが。そういうものを、結局、今のどこの貯金を使おうと勝手なんですけども、私から見れば、結局庁舎のそういった部分については財調を崩してやって、本当に公共施設の、例えば橋梁とか道路とか、そういう施設を将来的に修繕するために積まれるのが長寿命化基金というように理解をしますので、金額が15億になったからこっちに積むじゃなくて、財調を弾力的に運用されてやるのも一つの方法なんです。今の長寿命化基金は長寿命化基金で、先に恐らく概算で150億とかというような試算も出てますので、修繕料がかかるのが、だけん、そういうものに向かってしといて、とりあえず財調なら財調を運用していくという考え方も一つの基本的な方針を持ってやられたほうがいいんじゃないかと思うんですけども、そこらはどうお考えになりますか。

○議長（小谷 博徳君） 渡部総務課長。

○総務課長（渡部 裕之君） 原則的な考え方としては、そのように向かっていきたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） ほかにありませんか。

9番、竹永議員。

○議員（9番 竹永 明文君） 20ページの社会福祉総務費の中の貸付金280万についてお伺いしたいと思います。

これは町長就任以来の福祉奨学制度ということで創設をされて行ったわけですけど、昨年度は減額補正ということで全額減額しております。今年度については、3名分のうち2名分、2,800万のまた減額補正というように上がっておりますが、この奨学福祉制度の……。

○議長（小谷 博徳君） 280万。

○議員（9番 竹永 明文君） 280万、済みません。それについての、なぜこういうふうに希望者が少ないのかということについて、町長はどのように現状を把握しておられるのかお伺いしたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） この奨学金制度をつくらせていただいたときには、本当に福祉の関係の人材不足というのが大きな大きな課題であったと思います。そういった中で、担当課も含め、私も含め、こういう制度を日野町はつくりましたよということでいろいろ周知をさせていただきました。そういった中で、一昨年という言い方がいいんですかね、制度創設1年目についてはゼ

口だった、議員さんおっしゃるとおり。ことしについてもどうなのかなというふうに、私、率直に思ってましたけども、お一人貸与ということで一つの成果が生まれたのかなと思いますけども、やはりもう少し使いやすいような、そういった検討も加えていかないといけないかなというのが今率直な気持ちでございます。ただ、使っていただいているということでございますので、この制度は一定の効果は上げてきてるのではないかな、そういうふうにも感じております。

○議長（小谷 博徳君） 9番、竹永議員。

○議員（9番 竹永 明文君） これは創設したときから、目的というものが何か曖昧というか、議会でもずっと指摘してます。日野町に住んでいただいて、日野町のそういう福祉施設に従事する人に限ってこれは奨学金の対象ということで、人口をふやすための奨学金制度なのか、日野町の福祉の充実のための奨学金制度かということを議会でも再々議会のたびに指摘をしていますが、今の現状のこの奨学金制度というのは、日野町の福祉施設に勤めて、日野町に居住する人に限ったということなんで、なかなかこれは手を挙げにくいと。日野町でいいますと、現実的には日翔会しかないわけですから、例えばそういうこともやっぱりいろいろ考えながら、今の答弁では見直しも考えていきたいというふうに私は理解しましたが、間違いありませんか。

○議長（小谷 博徳君） 塚田町長。

○町長（塚田 淳一君） この奨学金について、今、議員さんからいろいろ御提案の趣旨があったと思います。やはりいろいろもっと使っていただけるようにとか、使いやすいように、それはちょっといろいろ研究してまいりたい、そのように感じております。

○議長（小谷 博徳君） ほかにありませんか。

最後に、議決部分であります1ページから7ページまでの質疑を行います。質疑ありませんか。  
6番、中原議員。

○議員（6番 中原 信男君） 町長にお伺いをいたします。6ページの繰越明許費の中の7の土木費、道路橋梁費の町道下黒坂線道路改良工事、3,616万8,000円ですか、この繰り越し。2つお伺いします。なぜこれが工事ができなくて繰り越されたのかということと、もう一つは、これ長年ずっと下安井から舟場間の工事、県代行で進めていくような話ですよ。そこで全く動きが見れない、見えてこない。やはり町長の本気度がどのくらいあるのかなということを私はお聞きしたいんですよ。工事費も結構かかって、本格的にいくと、予算的には日野町が6億程度で江府町が5億だとかいう数字があらかた出てますけども、本当に真剣にこの事業を進めるのか、どう思われているのか、ちょっとお考えをお聞きします。

まず最初に、なぜこの3,600万円が繰り越されたのかということと、町長のお考えを重ね

てお聞きしたいと思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 繰越明許費の関係でございます。

議員さん、工事費とおっしゃいましたけど、まだこれは測量設計のほうでして、なかなか測量設計ということだと、どういうんですか、地元の方に姿が見えないというか、そういう状況はあろうかと思えます。そして、この繰り越し理由ではございますけれども、いろいろ現地に合わせた設計をするというのに不測の日時が要ったのかな、そういうような状況でございます。そして、あわせて、進捗ぐあいつていうんですか、それについても、なかなか、どういうんですか、全体の予算の中の一部を充てるというようなことにも、そういった国交省さんからの交付金がどんどんどんどんふえるという状況でもございませぬので、できる範囲で進めさせていただいてるのが今、実情でございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 6番、中原議員。

○議員（6番 中原 信男君） 今、町長から測量の関係だとか国の予算措置の関係だとかという理由をちょっとお伺いしたんですけども、町長自身はこの事業をある程度引き継いで本当にやっていく考えがあるんですか。ちょっとその辺の気持ちを聞かせてください。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） この事業につきましては、事業着手するに当たって、議会ともいろいろ御相談させていただいて進めさせていただいてると私は承知しておりますので、今の状況では進めるということでございます。

○議長（小谷 博徳君） 6番、中原議員。

○議員（6番 中原 信男君） 最後に質問いたします。これで終わります。

議会と相談しながら進めていきたいというお考えを今述べられたわけですが、そうしますと、設計ができて、用地交渉もできて、スタートするということになると、工事費が仮に6億、7億という数字が出ていますが、それをもう過疎債をとかいろんな起債を受けてでも突っ走るということでもいいんですね。もう事が始まったらもうそこでやめるわけにはいきませんから、ある意味、わかりますか、町長。1回進んだら、そこでもう立ちどまることはできないんですよ。ある意味、もう全部行ってしまわんと、川の流れのごとく。いやいや、本当ですよ。だから、町の将来的な財政も考えながら、本当にあの道路が必要かというところの、もう一回、あなた自身も考え直すあれもあってもいいんじゃないかと思うんですけども、そういうあれでなしに、もういきますよということでもいいですか。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） 結論から言えば、それも含めて議会と御相談させていただきたいと思  
います。5年前は概算事業で、こういう、基本設計の基本ルートっていうんですか、そういうので  
御説明させていただいて、それに基づいて今進めているわけですが、詳細設計、そういつ  
たものができますと、また新たな、どういうんですか、変化するものもありますので、その辺は  
しっかり議会と御相談させていただいてまいりたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） ほかにありませんか。

〔質疑なし〕

○議長（小谷 博徳君） 質疑がないようですので、質疑を終わります。

これより討論を行います。

〔討論なし〕

○議長（小谷 博徳君） 討論がないようですので、討論を終わります。

これより、日程第1、議案第2号、令和元年度日野町一般会計補正予算（第7号）の採決を行  
います。

この採決は、起立によって行います。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（小谷 博徳君） 起立多数。よって、議案第2号は、原案のとおり可決されました。

---

## 日程第2 議案第3号

○議長（小谷 博徳君） 日程第2、議案第3号、令和元年度日野町介護保険特別会計補正予算（第  
4号）を議題といたします。

説明は初日に終わっていますので、これより質疑を行います。質疑は、歳入歳出全般にわたっ  
て行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小谷 博徳君） 質疑がないようですので、質疑を終わります。

これより討論を行います。

〔討論なし〕

○議長（小谷 博徳君） 討論がないようですので、討論を終わります。

これより、日程第2、議案第3号、令和元年度日野町介護保険特別会計補正予算（第4号）の

採決を行います。

この採決は、起立によって行います。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

[賛成者起立]

○議長（小谷 博徳君） 起立多数。よって、議案第3号は、原案のとおり可決されました。

---

### 日程第3 議案第4号

○議長（小谷 博徳君） 日程第3、議案第4号、令和元年度日野町簡易水道特別会計補正予算（第4号）を議題いたします。

説明は初日に終わっていますので、これより質疑を行います。質疑は、歳入歳出全般にわたって行います。質疑ありませんか。

[質疑なし]

○議長（小谷 博徳君） 質疑がないようですので、質疑を終わります。

これより討論を行います。

[討論なし]

○議長（小谷 博徳君） 討論がないようですので、討論を終わります。

これより、日程第3、議案第4号、令和元年度日野町簡易水道特別会計補正予算（第4号）の採決を行います。

この採決は、起立によって行います。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

[賛成者起立]

○議長（小谷 博徳君） 起立多数。よって、議案第4号は、原案のとおり可決されました。

---

### 日程第4 議案第5号

○議長（小谷 博徳君） 日程第4、議案第5号、令和元年度日野町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）を議題といたします。

説明は初日に終わっていますので、これより質疑を行います。質疑は、歳入歳出全般にわたって行います。

9番、竹永議員。

○議員（9番 竹永 明文君） それでは、1点だけ質問したいと思います。

7ページの総務費の中で政策委託料4,314万2,000円減額ということで、これは説明では公共下水道ストックマネジメント基本計画策定委託は次年度への振りかえによるという説明でありましたけど、公共下水維持管理は、これは本当、今後は日野町の将来的には非常に大きな負担になります。ことしも一般会計から8,400万程度振りかえをしておりますが、その中で、やはり将来的なことを考えたら、こういう計画は早急に立てながら将来に備えなければいけないというふうに思いますが、今回これが次年度に繰り越したという理由をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 塚田町長。

○町長（塚田 淳一君） 繰り越し理由の説明です。詳細につきましては、担当課長のほうから説明させます。

○議長（小谷 博徳君） 飛田建設水道課長。

○建設水道課長（飛田 朋伸君） 失礼します。3月補正で減額補正をし、新年度で当初予算でこの事業を上げさせていただきました。その理由でございますけども、社会資本整備交付金事業が来年度予算につくことがございまして、今年度の予算は一般財源を充てておりました。来年度、交付金の事業にのることによりまして補助を受けることができまして、高率の条件でできるということで来年度同じ事業を実施するように計画をしております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小谷 博徳君） 質疑がないようですので、質疑を終わります。

これより討論を行います。

〔討論なし〕

○議長（小谷 博徳君） 討論がないようですので、討論を終わります。

これより、日程第4、議案第5号、令和元年度日野町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）の採決を行います。

この採決は、起立によって行います。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（小谷 博徳君） 起立多数。よって、議案第5号は、原案のとおり可決されました。

---

日程第5 議案第6号

○議長（小谷 博徳君） 日程第5、議案第6号、令和元年度日野町農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）を議題といたします。

説明は初日に終わっていますので、これより質疑を行います。質疑は、歳入歳出全般にわたって行います。質疑ありませんか。

〔質疑なし〕

○議長（小谷 博徳君） 質疑がないようですので、質疑を終わります。

これより討論を行います。

〔討論なし〕

○議長（小谷 博徳君） 討論がないようですので、討論を終わります。

これより、日程第5、議案第6号、令和元年度日野町農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）の採決を行います。

この採決は、起立によって行います。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（小谷 博徳君） 起立多数。よって、議案第6号は、原案のとおり可決されました。

---

○議長（小谷 博徳君） お諮りいたします。本日の会議はこれで散会にいたしたいと思えます。

これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小谷 博徳君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれで散会することに決定いたしました。

本日はこれで散会いたします。

会議の再開は、3月16日午前10時といたします。御協力ありがとうございました。

午前10時49分散会

---